

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2770700876
法人名	有限会社 老蘇さん
事業所名	グループホーム 老蘇さん
訪問調査日	平成 21 年 12 月 21 日
評価確定日	平成 22 年 1 月 19 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2009年12月23日

【評価実施概要】

事業所番号	2770700876
法人名	有限会社 老蘇さん
事業所名	グループホーム 老蘇さん
所在地	大阪府河内長野市木戸西町2-8-20 (電話) 0721-52-2110

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号 親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年12月21日	評価確定日	平成22年1月19日

【情報提供票より】(21年1月11日(事業所記入))

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 2月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	13 人	常勤 7人	非常勤 6人, 常勤換算 6.5 人

(2)建物概要

建物構造	木造一部ブロック 造り	
	1 階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	23,000円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 180,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,270 円			

(4)利用者の概要 6月8日現在)

利用者人数	6名	男性	1名	女性	5名	
要介護1	0	名	要介護2	0	名	
要介護3	2	名	要介護4	2	名	
要介護5	2	名	要支援2	0	名	
年齢	平均	91.5 歳	最低	76 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	寺元記念病院 大谷整形外科 高安歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

現管理者が今から約6年前に、増加していく認知症高齢者のため、民家を改築されて1ユニット(定員6名)の現ホームを設立された。運営理念についても、当初より地域との交流が不可欠と考えられ、現理念を作り上げられた。利用者についても、大半が開設以来入居されており、確かに認知度は悪化しているが、我が家のように落ち着いて生活されている印象を受けた。スタッフの中にも看護師が1名おられ、絶えず入居者の健康状態をチェックされている。又、同一敷地内に広い畑があり、野菜については出きるだけそこで収穫したものを食卓にのせている。少し残念なことに、運営推進会議については行政の努力不足とこの地域のやや閉鎖性が原因なのかホームのあり方に無関心であり、思うように開かれていないことである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価で、改善課題として①運営推進会議を活かした取り組み、②災害対策の2項目を指摘されていたが、②については直接近隣の住民に非常災害時(地震、火事など)に利用者の避難について協力してもらえよう確約はとれている。①については、残念ながらやや閉鎖的な地域性もあるのか、年2回の頻度でしか開かれておらず、活発な意見交換会とはなっていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、毎年管理者のみならず、出来る限り職員全員から意見を聞き、管理者がまとめている。これを通じて職員の意識を向上させている。外部評価の結果も、真摯に受け止め指摘された点も改善するように努力している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議については、この地域の閉鎖性にもよるのか、12ヶ月に2度しか開かれていない。出席者についても、地域代表、行政代表、家族代表などが出席しているが、メンバーなどがよく変わり、活発な意見交換会とはなっていないように思える。管理者も努力され、地域とは疎遠にならぬよう自ら地域や市介護高齢課に出かけ当ホームの紹介方々色々意見や情報を集めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族はやはり遠慮してなかなか苦情や不安を言い難いことは理解している。そのために、来訪される家族については、何でも言って貰える様こころがけ、ホーム側も素直に応じるよう努力している。その他の家族については、苦情担当窓口に気軽に言ってもらえるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者は地域自治会に加入しており、定期会合や清掃活動に参加している。ホームの夏祭り行事には近隣の子供たちを招待している。又、不定期ながら当ホームで地域の方々のために、認知症ケアの勉強会を開いたりして、地域貢献に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当ホームの運営理念として、開設以来今日あるを期して、「家庭的な環境と温もりのある居心地良い場所を作ると同時に、地域や家族との交流を図れる場所を作る」を掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	来訪者によく目につくように、玄関真横に掲示されており、現職員にも職員会議にて徹底し、その実現に向かって励んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は地域自治会に加入しており、定期会合や清掃活動に参加している。ホームの夏祭りには、近隣の子供たちを招待して一緒に楽しんでいる。又、当ホームからの地域貢献として、不定期ながら認知症ケアの勉強会を開いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、管理者や計画作成担当者を中心に、できるだけ多くの職員の意見を聞きまとめている。これを通じて職員の意識が向上するよう努めている。外部評価の結果についても、真摯に受け止め指摘された改善点は改善するよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当地域の閉鎖性が原因なのか、現在12ヶ月に2度しか開かれていない。会議録を拝見しても活発な意見交換会とはなっていないように思える。	○	地域包括支援センターも無関心と思えるが、これからのホーム運営については、必ず第三者にホームのあり方を理解してもらい、アドバイスや情報も必要になってくるので、運営推進会議のあり方について更に工夫されるよう期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護高齢課にはよく出向き、種々相談ごとによってもらっている。又、情報も得ている。市ケアネットワーク施設部会にも出席し、参考になると思える意見については、当ホームにも取り入れるように工夫している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	開設以来入所されている方も多く、家族もよく来所されるので、その時に必ず本人の健康状態を中心に報告している。そうでない方には、家族の要望によって月1回はお手紙などで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とも長年のお付き合いなので、なんでも気軽に言ってくれるケースが多い。そのためには家族の来所時には何でも言いやすい雰囲気作りを心がけている。もちろん、ホームの運営上の参考にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来職員の離職は殆んど無い。定員6名の小さなホームで、一応担当制を取り入れているが、ほぼ全員が利用者を見守っているような雰囲気なので、もし離職者があっても利用者のダメージはまず無いと思える。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営規定に明記されている通り、現職員については外部内部を問わず、年2回研修を受講している。内容のいいものについては、勉強会を開くなどして伝達している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	河内長野市には計8軒のグループホームがある。幸い市が積極的に市ケアネットワーク施設部会(地域密着型)を開いてくれているので、必ず参加し、情報交換や職員のスキルアップのやり方など検討している。会話の出来にくい利用者には、他のホームの同じようなレベルの方と交歓している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、他のデイサービスや病院を経て、あるいは直接自宅からなど色々ある。いずれも早く本人や家族に安心・納得してもらえるよう充分な話し合いをしたり、ホーム見学を何度かしてもらって、雰囲気に馴染んでもらったりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	高齢者の経験と知識には、常に尊敬と敬意の念を持って接し、そのためには、介護するというよりも共に支えあって過ごすという考え方に徹底している。利用者からも育児の相談にのってもらったり、折鶴や編み物などを教わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まず利用者の意向をよく知るために、人生歴や性格について詳細なフェースシートを作成し全員で共有している。それでも困難な場合は、家族やかかりつけ医に確認している。本人との何気ない会話からもくみ取ることもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画については、フェイスシートを参考に家族からの基本情報や、利用者の日常生活の中で知り得た情報をモニタリングして、家族と共にカンファレンスを行い、管理者、計画担当者が中心になってアセスメントを行い、介護計画を立案している。利用者本意の介護計画を作成し、利用者、家族の同意、確認を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1回行っている。毎月のカンファレンスでの検討と定期的なモニタリングでに基づき、利用者担当者、計画作成担当者が計画の見直しを判断するが、急激な変化があった場合は利用者、家族と共にカンファレンスに参加し、家族の意向、担当者の意見も取り入れ、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所では医療連携体制を生かし、利用者にとって負担となる受診や入院回避、早期退院に向けての支援を行っている。通院や自宅への付き添いや送迎、墓参り等も臨機応変に対応している。また、近隣の高齢者がデイサービスを利用できるように地域の方々の交流も深めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望や意向を優先して、事業所の協力医のほか、入居前からのかかりつけ医への支援をしている。内科、歯科は月2回の協力医の訪問診療を実地している。緊急時の搬送医療機関も利用者の希望に沿って、決められている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時には「急変時・救急時の対応」の同意書を交わしている。利用者の状態によって随時、主治医、家族、利用者、職員の全員で重度化や終末期に向けた対応について話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重し、利用者に対する言葉使いや態度で誇りを傷つけないよう配慮している。居室のドアはノックし、外から声をかけるようにしている。個人情報保護規定は玄関に掲示し、個人情報に関する書類等は鍵のあるケースに保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活リズムを尊重しつつ、できるだけ自由に利用者の個性を生かし、希望に沿って過ごせるように、支援している。自宅にいればどうするかを常に考えながら、自己決定に委ねている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れた献立を心掛けている。裏庭で採れた季節の野菜や、生協で配達される食材を用いて、調理している。食事の準備や後片付けは、利用者一人ひとりの残存機能を生かしながら、職員と利用者と一緒にいき、食事と一緒に摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回好きな時間に入浴できるように支援している。入浴を拒否する場合は足のマッサージ、背中マッサージと称して入浴の誘導を行っている。入浴したことを忘れる利用者には、否定せず、一人ひとりにあった対応を心掛けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生きがいの支援として、趣味や楽しみごとを利用者や家族から聞き出して、利用者の気持ちや力を生かした役割や楽しみごとの場面づくりに努めている。散歩、花見、塗り絵、ジグソーパズル、歌、そばなど様々なことが工夫されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、外食等できるだけ日常的に戸外へ出かけられるように、支援している。家族が訪問する日には、家族と一緒に出かけ気晴らしとしている。近隣のお百姓さんと顔なじみになり、季節のお野菜を頂いたりもする。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関、門扉に日中は鍵をかけていない。チャイムが鳴るとホームで飼っている小型犬が玄関まで飛び出し訪問客を迎えてくれる。犬は利用者の大切なペットとして活躍し、鍵をかけないケアの一翼を担っているように見える。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防訓練を消防署の協力を得て実施している。昼、夜勤時の避難訓練、消防訓練のほか、自動体外式除細動機(AED)を用いた救急救命訓練も実施している。災害時には近隣住民の協力要請の体制も整え、また消防署の方からは助言も頂いている。看護師との緊急連絡体制もとのえしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量はチェック表に毎回記録されている。医師の指導のもと、一人ひとりの健康状態を観察しながら、食事形態にも工夫して食欲を促すように、個々に応じた支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一戸建ての民家をリフォームしているので、明るくて家庭的な雰囲気がある。居間兼食堂には利用者好みの椅子があり、それぞれがコミュニケーションスペースづくりの場所として利用している。季節毎の花やリースを飾たり、庭の植木や花壇、畑の作物、居間に飾った絵画や折り紙等で季節感を感じるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔で、利用者の使い慣れた家具や備品が持ち込まれている。職員が家族と相談しながら利用者が落ち着いて過ごし易い安全な居室づくりに、努めている。表札は写真いりのネームプレートが目線の高さに設置されている。		